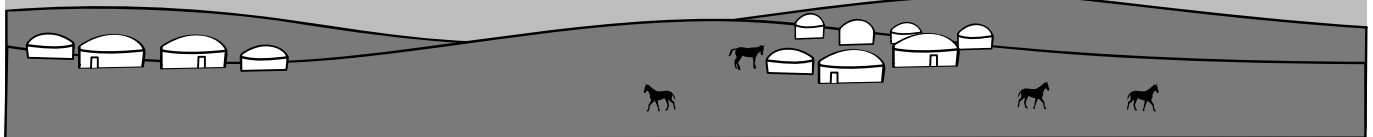


NewsLetter

創刊号

- パオ設立記念イベントリポート
- 理事・監事のご挨拶
- 厚生労働省へ公的助成を要請



ニュースレター発刊にあたって

パオは子どもを守り、支え、共に生き、
共に育つことを志す人々の輪。



少子化、高齢化に直面しているわたしたちの社会は、若いのちである子どもを本当に大切にしているでしょうか。

子どもセンター「パオ」代表理事
多田元

いま、少年非行がむしろ減少しているのに、実態を隠して厳罰化や管理教育の強化が唱えられています。それはおとなの精神の貧しさの表れであり、これこそが厳しく問われなければなりません。

虐待、非行、いじめ、不登校などなど、まわりには傷つき疲れ果て、安心して心をやすめる居場所を失った子どもたちがいます。その若いのちの存在を守り、支えるパートナーが必要です。

子どもセンター「パオ」は子どものパートナーとなって、シェルターなど必要な居場所をつくり、自立を支援し、共に生き、共に育つ心豊かな社会をめざして発信します。

ご支援をお願い申し上げます。

パオ
イベント

子どもの権利全国イベント 『とり戻そう、子どもたちの笑顔を！パートⅡ』開催！

2006年7月1日
中区役所ホール

7月1日に、子どもセンター「パオ」設立を記念したイベント「とり戻そう、子どもたちの笑顔を！パートⅡ」が名古屋市中区栄の中区役所ホールで開かれました。来春から子どもたちのためのシェルターを開設していくため、広く理解と支援を求めていくために、弁護士や福祉、教育関係者ら50人ほどが裏方を務めました。

名古屋でおなじみのタレント矢野きよ実さんと、東京でカリ

ヨン子どもセンター理事長を務める弁護士坪井節子さんがそれぞれお話しくださいました。

後半のシンポジウムでは、パオ代表の多田元さんも加わり、3人で話が進みました。

イベントは「今日はどうしてみんなここに集まってくれたの？」という矢野さんの問いかけから始まりました。会場には200人以上が参加し、メモをとったり、時には涙しながら話を聴く姿が…。

質疑にも積極的に参加頂き、会場は何ともいえない温かい雰囲気になっていました。出演者、運営スタッフ、会場の皆さんが一体となって、救うべき子どもがいるという現状を知り、人と人の出会いや繋がり大切さ、私たちにも何かできないかという思いに共感し・・・そこにはみんなでパオをスタートさせよう！という大きなエネルギーがあふれていました。

会場入り口には、書家でもある矢野さんの作品「人と人」などが飾られました。このイベントでの会場の皆さんとパオの出会い、これからパオが目指そうとしている子どもたちとの出会いが「人と人」の書に表れているようでした。 … 詳細は2ページ

